

部活動などの活躍

《実用数学技能検定》

- 3級 ○○○○さん(3-1)、○○○○さん(3-1)、○○○○さん(3-1)、○○○○さん(3-2)、○○○○さん(3-3)、○○○○さん(3-3)、○○○○さん(3-4)、○○○○さん(2-3)
- 4級 ○○○○さん(3-4)、○○○○さん(2-1)、○○○○さん(2-2)
- 5級 ○○○○さん(2-3)、○○○○さん(2-3)、○○○○さん(1-4)
- 6級 ○○○○さん(1-1)、○○○○さん(1-1)、○○○○さん(1-2)、○○○○さん(1-4)

《吹奏楽部》

第61回東京都中学校吹奏楽コンクール B組 銅賞

コンクールに先駆け、7月28日に校内で開催されたリハーサルのような。これまでの練習の成果が感じられる素晴らしい合奏でした。



南千住マイスターのコーナー

「チンチン」という発音と共に下町の心を運んでいます。しかし、時は自動車の時代へと移り変わっていきます。交通量が多くなると都電は渋滞の原因になり、徐々に地下鉄やバスへと移行していきます。さらに、財政再建のために、東京都は昭和42、第一次から第七次にかけての都電撤去を決定し、全路線を廃止することにしました。しかし、沿線住民、都民の強い要望もあり、ぎりぎりのところで荒川線だけが残されることになりました。荒川線は専用軌道が多かったことや代替のバス路線がなかったことが存続につながった要因とされています。

「あらかわといえは『都電』、『都電』といえはあらかわといえは『都電』ではありません。東京で唯一残っている『都電荒川線』はあまりにも有名です。その始発着駅「三ノ輪橋停留所」が南千住の地にあります。都電のルーツは明治36年8月に東京馬車鉄道が動力を馬から電気に改め東京電車鉄道を開業したことに始まります。それを機に東京市街鉄道、東京電気鉄道が相次いで開業します。その後この三社が合併し、東京鉄道となりました。都電の正式名称は「東京都電車」。明治44年、東京市が東京鉄道を買収し、東京市電となったのが始まりです。同じ年、王子電気軌道が飛鳥山上〜大塚間に開業しました。現在の都電荒川線の前身になる区間です。その後もいくつかの電車会社の開業や合併などを繰り返して、昭和17年には、東京市が王子電気鉄道も買収し、現在の早稲田〜王子〜三ノ輪橋の都電荒川線になりました。都電は昭和35年頃最盛期を迎え、41路線にもなりましたが、心部から品川、新宿、池袋、さらに周辺部まで、都内全域を網羅するほどでした。南千住の地域にも、現在の荒川線の他に、浅草〜南千住〜千住四丁目(北千住)を結ぶ路線なども通り、千住大橋の上も都電が走っていました。

南千住の交通と産業 2025 『都電荒川線』



千住大橋を渡る都電



学校だより
令和三年9月
第119号
荒川区立南千住第二中学校



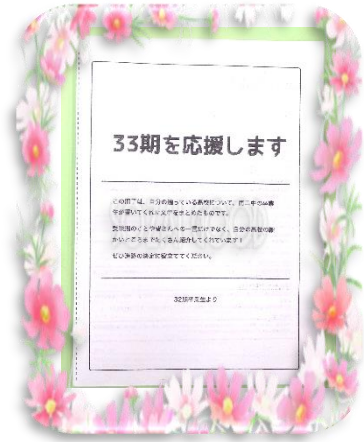
ナンちゃん・ニーくん

引き継がれる思いやりの心

校長 松田 公好

7月20日、1学期の終業式の日、3年生たちに1冊の冊子が配られました。それは31ページで構成され、そこには49種類の様々な受験に関する情報が掲載されていました。そして表紙には大きく『33期を応援します』という題が付けられ、その下にはこんな文章が…

この冊子は、自分の通っている高校について、南二中の卒業生が書いてくれた文章をまとめたものです。受験期のことや皆さんへの一言だけでなく、自分の高校の細かいところまでたくさん紹介してくれています！ぜひ進路決定に役立ててください。(原文のまま)



そして表紙の一番下には小さく 『32期卒業生より』 とお気づきの方も多と思います。そう、今年の3月に本校を巣立った卒業生たちが、自分たちが進学した高等学校の様子をはじめとした受験に役立つ情報をまとめて冊子にしてくれたものだったのです。

そして「おや」と思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか？ 実はこれは今年初めてのことでなく、昨年度に続いて2度目のことなのです。

昨年9月、その年の3月に卒業した31期卒業生の有志が、「コロナの影響で高校の説明会などが実施されず高校の情報が思うように手に入らなくて困っているのではないかと、後輩のために同期の卒業生たちに呼びかけ、自主的に情報提供をしてくれたのです。

コロナの影響で一斉休校が実施され、自分たちの高校生活のスタートも大幅に遅れたため、まだ高校生活に慣れない中でのこの思いやりあふれる行動に、多くの方々の賞賛をいただきました。

そして今年は31期生たちの思いやりの心をしっかり受け取った32期生たちが、その思いやりの心を引き継いだのだと感じています。

コロナの影響を受け続け、気持ちが殺伐としがちな今日この頃ですが、少しほっこりした気持ちになることができました。

この先形は変わっても、この後輩を思いやる心が毎年次の代へと引き継がれ、コロナをきっかけに南二中の新たな伝統となったら素敵だなあ、などと勝手に思っています。

道徳授業地区公開講座

1学年

9月11日(土)の3校時に、「道徳授業地区公開講座」が開かれました。今年も感染症拡大の防止から、保護者や地域の皆さんへの公開も学校評議員の皆さんを招いての意見交換会も中止して、道徳授業を実施しました。

1学年は、挑戦し続けること「**風を感じて～村上清加のチャレンジ**」を題材に、不慮の事故で右足を失った村上さんが家族や周りの人々も同じように苦しんでいることに気づき、不安や困難を乗り越え、東京パラリンピックという大きな目標に向けて、常に前向きに努力を続け挑戦する姿を描いた教科書を読み、「**希望と勇気、克己と強い意志**」を育みました。東京パラリンピックの直後ということもあり、障がいがありながらも様々な競技で新記録に挑む選手の姿も印象に残り、生徒たちは積極的に授業に取り組み、村上さんの心情に寄せた質問では活発な意見交換が行われ、**目標や困難に前向きに努力を続け、挑戦することの大切さ**を学びました。

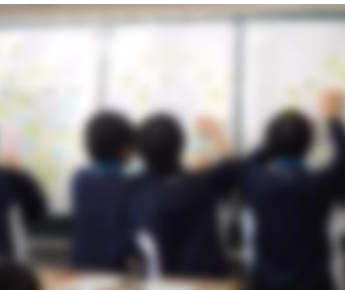
2学年は、「**思いやり、感謝、友情、相互理解**」をテーマに、同じ絵でも見方を変えると、違うものに見えるように、短所を長所に変える言葉を一人ひとりが考えて発表する**リフレーミング**を行いました。その後班に分かれ、一人代表者を決めると、その人の長所や良い所を上げていく**ほめシャワー**を行いました。制限時間内に、できるだけたくさんのほめ言葉を付箋に書いて貼った班が勝ちというゲーム感覚あふれるグループワークに皆たいへん意欲的に取り組み、各班の模造紙はたくさんのほめ言葉で埋め尽くされました。最後にほめ言葉を発表すると、言われた人も言った人も笑顔になり、**悪口のような嫌な言葉は傷ついたりするが、ほめ言葉はお互いを良い気分にする**ことを実感できました。自他の個性の良い所を認め合い、自分自身の個性の良さを認め自信を持つことで、互いに励まし高め合って人間関係をより深めました。

3学年は、クラスの現状を踏まえて、各クラス独自のテーマで取り組みました。1組は「**生命の尊さ**」をテーマに、2組は「**よりよく生きる喜び**」、3組は「**友情、信頼**」、4組は「**向上心、個性の伸長**」をテーマに教科書を読み深めて授業を行いました。1組は脳死状態となった女性の両親が医療措置を打ち切るよう求めたことで、両親、主治医、裁判所それぞれの立場からその思いや背景などを考えさせ、グループで意見交換を行い、**命について理解を深めました**。2組は、教科書の「**信念をつらぬいて生きる**」より、黒田博樹選手の引退セレモニーと高橋尚子選手の夢をあきらめず努力する生き方を追ったドキュメンタリーを視聴し、進路決定に向けて、**自分にとっての「よりよく生きる喜び」**について考えました。3組は、「**心から信じ合える友を**」より、平昌冬季オリンピックで金メダルの小平選手と銀メダルの李選手のライバルであり、お互いを信頼し合える友人である2人の物語を中心に、**友情とは何か、友情を深めるために大切なことは何か**について考え、発表しました。4組は、教科書の「**見方を変えれば**」より、自信を失いかけた主人公が友人の言葉で自己のよさに気づき、個性を伸ばして生きていこうとする姿を通し、「**短所を長所に変えてみる**」「**友人のよいところを見つける**」グループワークを行いました。クラス全員で自己肯定感を高め、自己理解を深めました。

3学年全てのクラスで活発な意見交換を行い、**他者の意見を聞き、自分の考えをより広げ高める**ことができました。

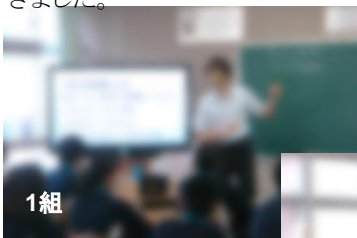


2学年



3学年

3学年はクラスの現状に合わせて、各クラスで主題・ねらいを変えて道徳の授業を行いました。



1組



3組



2組



4組

27日(月)
投票!

第34期 生徒会役員選挙

今年度生徒会役員選挙の立候補が9月7日に締め切れ、**生徒会長に1名(定数1)、2年生本部役員に3名(定数3)、1年生本部役員に3名(定数3)が立候補**しました。9月13日(月)からはじまった選挙活動では、給食の時間に、立候補者と推薦人のあいさつが放送されています。また、放課後には各候補者のスピーチをビデオ録画して1階ホールで放映中。立ち止まり、立候補者の公約などを真剣に聞き入る生徒の様子も見られ、南千住二中学生の生徒会活動へ寄せる期待がうかがえました。選挙会役員選挙は27日(月)の1時間目に放送による立会演説会が行われ、その後、荒川

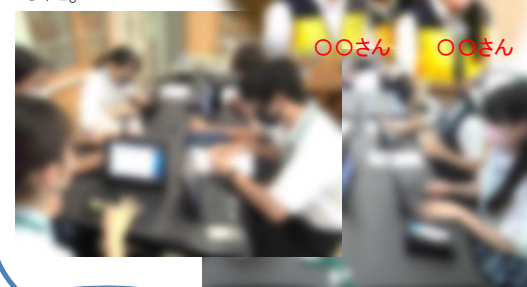


立候補者7名の
公示ポスター

区の選挙管理委員会からお借りした実際の投票箱を使い、本番の投票と同様に一人ひとりが投票券をもって1票を投じます。当日開票で、翌日には当選者の公示が行われる予定です。

荒川区中学生被災地派遣

荒川区中学校防災部による被災地訪問が今年度はオンラインで釜石市の中学校と荒川区の中学校を結び行われました。南千住二中からは、代表として2学年の**〇〇〇〇さん(1組)**と**〇〇〇〇さん(3組)**の2名が参加。釜石東中学校の生徒の皆さんや“釜石の奇跡”の語り部瀬戸さん、元釜石小校長で現在「いのちをつなぐ未来館」名誉館長の加藤さんらから体験談をうかがい、震災から多くの教訓を学びました。その後、グループで荒川区の防災意識、今荒川区でできることなどを話し合い、8月27日にはその成果をまとめた報告会が“ゆいの森”で開催されました。

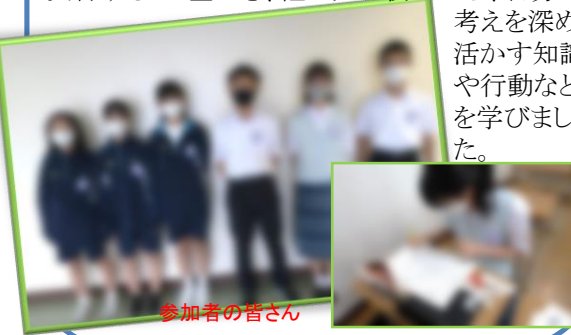


〇〇さん 〇〇さん

夏休み中の
活動

JRC リーダーシップチャレンジ

JRCでは、毎年夏休みにJRCのリーダーを育成する学習活動を行っています。今年度は1学年の**〇〇〇〇さん(1組)**、**〇〇〇〇さん(1組)**、**〇〇〇〇さん(3組)**と2学年の**〇〇〇〇さん(3組)**、**〇〇〇〇さん(4組)**、**〇〇〇〇さん(4組)**の6人が荒川区の代表として参加し、各校をオンラインでつないで8月16日～18日の3日間にわたり、実施されました。講義では、新型コロナウイルスの3つの顔や赤十字の精神、国際人道法などについて学び、最終日のグループワークでは、災害時に様々な物資をみんなで平等に分ける方法などを考えました。3日間を通して、JRCの精神“**気づき、考え、実行する**”に基づき、他の人の役に立ち、自分の



参加者の皆さん

考えを深め
活かす知識
や行動など
を学びまし
た。

中学生科学コンテスト

毎年東京都では、中学1・2年生の生徒が3人1組になって理科・数学などの能力を競い合う「**中学生科学コンテスト**」が夏休みに実施されています。南千住二中からは2学年の6チームが応募し、実技会場の受け入れ人数により、4チームに調整され、競技に参加しました。しかし、感染症拡大予防から急遽今年度は筆記競技のみを行うことになりました。夏休みも残すところわずかとなった8月30日(月)に4チーム12人が理科室に集まり、3人で分担したり、議論し合って、これまでに培った理数の知識に新たな情報を統合した難問に挑戦しました。

